



申23号 2019年度 第3回交渉 夏季手当妥結にあたって 会社回答を受け、改めて4つのポイントについて会社の認識を確認しました!

組合 増収増益は組合員、社員の日々の努力であることについて 会社

- インバウンド増への対応や、輸送混乱時の、早期復旧とお客さま対応、**安全・安定輸送への日々の努力**がある。
- 営業利益が△32億円とはいえ、増収増益の中で昨年同月数と判断した理由は何か。

- 社員の**安全・安定輸送の更なるレベルアップ、サービス品質向上、インバウンド増への取組みの成果**だと交渉で認識一致してきた。
- 企業の基礎体力を示す営業利益は、平成27年度をピークに横ばいから減少傾向だ。

組合 施策を担い会社の発展に寄与してきた努力について 会社

- 物件費233億円増には部外委託費の増が含まれる。**出向先で施策を担う組合員の努力が入っている**。評価すべきだ。
- 施策は時間軸を意識して、建設的に議論してきた。各施策はプラス要素になる

- 施策への対応など**増収を実現した社員の努力に報いることを会社として判断**した。
- 多くの施策を労使で建設的に議論してきた。今後の会社の将来をうらなう施策もあり、その端緒の議論を労使でやってきた。

組合 +5万円要求について 会社

- 年齢が低く、職制が低い年代に対して厚く支払うべきだ。
- 基本給の高い社員を優遇したように見えるが、総合的な判断の中でどのようなバランスを見たのか。

- 全体のバランスを考慮して、その都度要求に基づき議論して判断する。
- 初任給の引き上げと入社5年目までに対する基本給調整を実施した。バランスを考え、検討し判断している。

組合 株主配当と組合員、社員への還元について 会社

- 株主配当を今年は15円アップして、配当性向が上昇している。一方で、**社員還元については横ばい**である。
- 順調な経営を支えている組合員、社員への投資をしっかりと行うべきだ。

- 労働条件は**労働環境も含め、基準内賃金や手当などの面で着実に還元**を行っていく。
- 総還元性向40%を目指していく。
- ステークホルダー(株主、お客さま、地域、社員)に、バランスを見て様々な還元に取り組む。

組合 2018年度の単体の期末決算は、増収増益。営業収益、運輸収入は7期連続の増収、期末決算としては、過去最高。連結決算の営業収益も3兆円を超え、2019年度通期の連結業績予想でも営業収益3兆700億円とされており、**業績は伸びていくことは間違いない**。

- 団体交渉で会社は「繁忙期が好調で、追い風を数字に結び付けたのは現場の成果」「仕事の高度化、業務の高度化は現場の頑張りがあってこそ。その努力を評価している」「多くの苦労、努力を踏まえて今夏季手当を判断したい」と、**現場の努力に対して一定の評価をしており、その点に関しては認識が合っている**。
- 変革2027の実現に向けて努力した組合員も、株主同様に、重要なステークホルダーである。だが、回答はリスク管理に重きを置いていると感じる。団体交渉の中で会社の示した考え方について実感が持てない回答だ。
- 2018年度期末決算からしても**支払い能力は十分**にある。全組合員の様々な努力と苦労に報いるための基準内賃金の3.1ヶ月+5万円の要求に対し、示された回答は「2.91ヶ月」と昨年と同水準だ。組合員とその家族の思いなどに十分応えているのかという疑問は残るものの、この間の議論経過や今後の諸課題などを勘案し、苦渋の決断であるが妥結する。

職場から夏季手当交渉を支えてくださった皆さんに感謝申し上げます!